

経営情報学会 2020 年度年次大会

河合亜矢子（かわい あやこ） 学習院大学経済学部

1. 大会概要

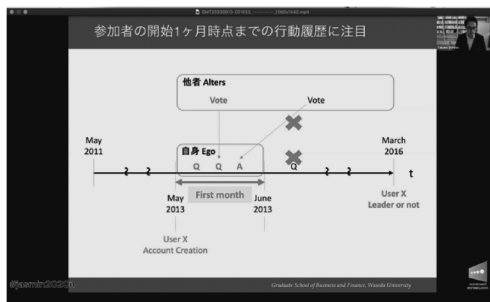
2020 年度年次大会は、2020 年 6 月 13 日土曜日に「ウィズコロナ社会の新市場」を大会テーマとして開催されました。大会は午後から開催され、開会式、2019 年度学会賞講演、招待講演と懇親会が行われました。新型コロナ感染拡大防止の観点からオンライン開催となりましたが、会員・非会員合わせて 200 名近くの申し込みがあり、当日も 100 名近くの参加者が集う盛会となりました。

2. 学会賞講演

経営情報学会の長い歴史の中でも年次大会という開催形態は初めてとなります。これまで年に 2 度開催されてきた研究発表大会を 1 度に集約し、定時社員総会に併せて行われる年次大会は、実験的、挑戦的な試みを交えながら、理事会主導で学会としての今後の方向性を内外に発信する機会、という位置付けで開催されることとなりました。その初回となる 2020 年度年次大会は、新型コロナウイルスの感染拡大による社会情勢に合わせ、当初の計画を大きく変更してオンライン開催という形での開催となりました。

開会式では冒頭に妹尾会長から、ニューノーマルの中での研究、実践の可能性について考える機会にして欲しいというご挨拶があり、その後早稲田大学准教授 清水たくみ氏による学会賞講演をいただきました。同氏は“Who Becomes a High Performing Leader in Knowledge Sharing Online Communities?”（経営情報学会誌、Vol. 27, No. 1, June 2018）で学会賞を受賞されました。

これまでの学会賞講演とは全く異なり、講演者は遠隔地より画面共有の形で講演を行い、オンライン会議用 Web アプリケーションを併用することで、聴講者がスティッカーを送ったり、コメントや質問などを書き込んだりという方法で講演が行われました。講演中、「なぜソフトウェア系のコミュニティ



清水氏によるご講演の様子

にしたのでしょうか?」「現実世界における声の大きい人という種類の人と違い、周囲からの評価も見えるのが面白いですね」「リアルコミュニティにおける自然発生リーダーシップと、オンラインコミュニティにおけるそれとの共通点・相違点について、本研究から得られた示唆はなんでしょうか」など多くの質問が寄せられ、講演者がその場で回答する、というインタラクティブな場面も見られました。

講演後は、学習院大学客員教授 深見嘉明氏の巧みなファシリテーションで、寄せられた多くの質問の中からいくつかの質問に答えつつ、活発なディスカッションが行われました。

3. 招待講演

学会賞講演に引き続き、ANA ホールディングスグループ経営戦略室事業推進部長の津田佳明氏から「ANA グループが描く未来のエアライン」、avatarin（アバターイン）代表取締役 CEO 深堀昂氏から「エアラインの限界値 6% の壁を破る究極の移動手段アバター」というテーマでご講演をいただきました。

まず津田氏から、なぜ ANA がアバター事業か? という事業背景についてのご説明があり、アバターロボット「newme（ニューミー）」の実演が行われました。実演では、遠隔地にいる avatarin 社スタッフと妹尾会長とが会話を交わしたり、妹尾会長から別の方向に視線を促されたロボットが向きを変えて

みたりというやりとりがありました。newmeを介した会話は、パソコン画面越しの会話よりも場を共有している感覚が不思議と強く感じられ、アバターロボットの可能性が垣間見える一幕でした。

さらに、深堀氏より newme 含め、世界のトップ企業、技術者、投資家といった多様性あふれるチーム編成で進められるさまざまな形態のアバターロボットの研究・開発についてのご紹介がありました。

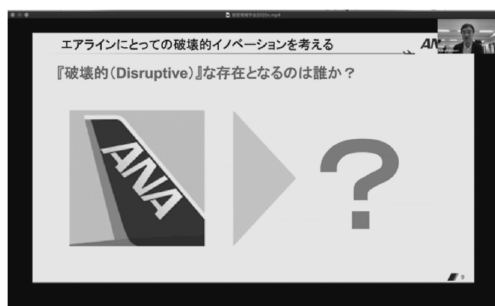
招待講演でも、学会賞講演と同様にオンライン会議システムを併用していましたので、講演中、多くのコメントや質問が寄せられました。特に、ANAのような規模と伝統を持つ企業で、このような極めて冒険的なプロジェクトを進めることができたリーダーシップに関する質問が目立ちました。津田氏からは早稲田大学 入江章栄教授の『『チャラ男』と『根回しオヤジ』のタッグこそ企業イノベーションの源泉だ』という言葉を採用し、もちろん深堀氏はチャラ男ではないけれども、確固たる技術と前に進める熱意、実行力を持つ人間と、それを心の底から応援し支える、話の進め方とコネクションを持った人間

の存在がプロジェクトに命を吹き込んだ、というお話をいただきました。深堀氏からは、「ご縁」という偶然の出会いの大切さとその偶然を呼び込むための実行力についてお答えをいただきました。

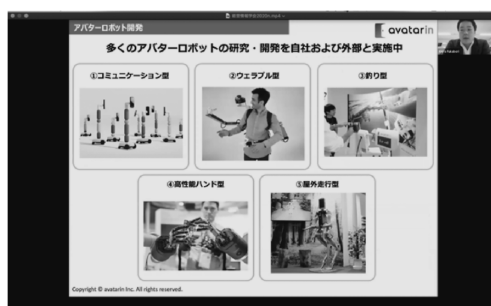
「移動」をビジネスの核とする ANA グループが、「移動しない」で、イノベーションを牽引する進化の現在進行形に触れることができ、本大会のテーマである「ウィズコロナ社会の新市場」にふさわしいご講演内容でした。ご講演後は妹尾会長より、津田・深堀両氏に感謝状が贈られました。今回の大会では感謝状の内容を妹尾会長が読み上げ、感謝状は後日郵送するという形がとられました。

4. 感謝状授与

招待講演に続いて、2019 年秋期全国研究発表大会の大会委員長 遊橋裕泰氏（静岡大学情報学部）、実行委員長 遠藤正之氏（静岡大学情報学部）、プログラム委員長 増田靖氏（光産業創成大学院大学光産業創成研究科）への感謝状授与と次回大会の案内が行われました。こちら、感謝状は後日郵送とい



津田氏によるご講演の様子



深堀氏によるご講演の様子



妹尾会長とアバター（実演）



津田氏（右）・深堀氏（左）

う形で、妹尾会長より感謝状の文面が読み上げられ、遊橋氏、遠藤氏、増田氏3名からそれぞれ大会にかけた想い、大会開催に携わった方々および、大会参加者への感謝などが述べられました。

次回研究発表大会は2020年秋、東京工科大学八王子キャンパスにて開催予定です。大会テーマは「Society 5.0とその先へ〜ICTで迎える新しい日常〜」ということで、東京工科大学コンピューターサイエンス学部教授の竹田昌弘氏よりご案内をいただきました。新型コロナの感染拡大状況によっては、「新しい日常」に合わせた開催形式になる可能性についても言及しつつ、高尾山や中町黒堀通りなど自然豊かで見所満載の観光スポットなども紹介され、多くの皆様の参加を呼びかけました。

5. 懇親会

懇親会も試験的にオンラインでの開催を試みました。懇親会の冒頭に実行委員長の河合より大会開催の趣旨などを含め短い挨拶を行い、妹尾会長からの挨拶と乾杯のご発声をいただきました。参加者は画

面の向こうで思い思いの飲み物を片手に乾杯しました。懇親会ではZoomのブレイクアウトルーム機能を用いて参加者を3人〜4人のグループに分け、自由に懇談してもらうというを行いました。ブレイクアウトルームに分かれての懇親時間は15分ほどで、定時社員総会を挟んで、メンバーを変えながら5回行う予定でしたが、少し時間が後ろに押していたことと、運営側の意思疎通の問題により予定通りには進めることができませんでした。中には盛り上がったグループもあり、17時35分の終了時刻以降も一部の参加者の方々はルームに残って、私たち実行スタッフと今大会の取り組みや今後について意見交換をしてくださいました。ただ、懇親会については全般的に反省点も多く、今後の大会で懇親会をオンラインで開催する場合には、使用するアプリケーションも含め、工夫が必要であると感じています。

6. 年次大会を終えて

本大会は経営情報学会で初めての年次大会、会長を中心とした現在の理事会からの情報発信の場ということで、2019年秋季大会前後から、大会委員長の妹尾会長を中心に、理事の方々からも多大なご協力を賜りながら、どのような企画を行うか調整を重ねて来ました。当初の大会テーマ候補は「常識破りの新市場創造」「刺激的新事業をデザインする」などでした。イノベーションを軸に2019年夏に行われた将来構想会議（JASMIN 超会議）で取りまとめられた「交差点」の中から、縁結び、萌芽創出といった課題へのアクションとして、パネルディスカッション、ワールドカフェ方式のワークショップ、企業と研究室を縁結びするためのピッチ大会、研究部会のポスター発表を兼ねたランチ会などさまざまな可能性について検討しました。

本大会会場の学習院大学はJR山手線目白駅から徒歩30秒の好立地にありながら、キャンパス内の木々に豊島区の緑の3分の1を占めるという緑豊かなキャンパスです。6月の大会時期にはキャンパスに溢れる新緑、紫陽花の花が咲き乱れる大変に美しい時期でしたので、皆様に直接足を運んでいただけることを実行委員一同楽しみにしておりました。新型コロナの感染拡大状況への対応として大きな変更



妹尾会長（左上）・遊橋氏（左下）・遠藤氏（右上）・増田氏（右下）

開催要項

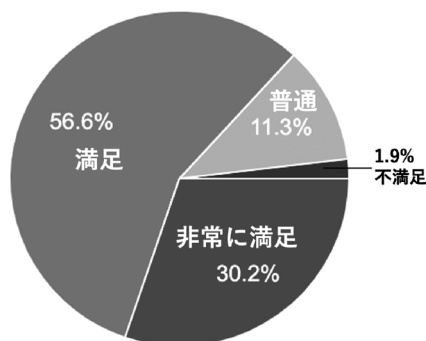
日付：11月7日(土)・8日(日)
 場所：東京工科大学 八王子キャンパス
 最寄り駅：横浜線 八王子みなみ野
 テーマ：Society 5.0とその先へ
 ---ICTで迎える新しい日常---

ICTによる新しい社会を目指していたはずが、昨今の「新しい日常」を受け入れるために、少々ゆがんだ形かもしれないが、急速なICT活用が進んでいる。この経過と今後を考えたい

2020年度秋季研究発表大会開催要項

を余儀なくされたことで残念な想いもありましたが、初めての年次大会、初めてのオンライン開催ということで、結果的には新しい可能性を感じられる試みになったことを大変嬉しく思います。

大会後、参加者の皆様にはアンケートへの回答をお願いしました。当日100名ほどの参加者の内、53名の方々からの回答を得られました。その集計結果を一部共有させていただきたいと思います。



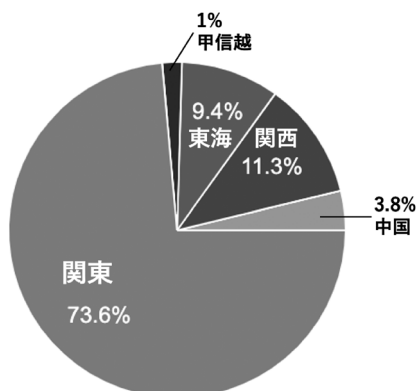
【今大会の満足度】

大会の満足度と同様に、学会賞講演、招待講演に対する満足度についても非常に高い結果が出ました。特に招待講演に関しては大きな反響がありました。ほんの一部ですが、寄せられたコメントをここで共有させていただきます。

- ・デモもあり、動画もあり、雰囲気もよくわかり、しかも堅苦しくなくいつもとは少し違うとても引きこまれるご講演でした。
- ・情勢に適した発表内容だった。リモートでも、アバターの臨場感が伝わってきた。
- ・個人的に深掘様の「二人羽織ロボット」のくだりに心を揺さぶられていました。実は息子が小学生から中学生にかけて、5年間不登校でした。もしその時代にこういう仕掛けがあれば、息子のような不登校児童にどういった影響があっただろうと想像したときに、不覚にも涙が出てきました。
- ・新事業開発の狙いと将来展望を、ANA全社の意図や戦略とあわせてお話いただけた点がとてもよかったです。超長期的な視点からの企業戦略がどのように策定されているかを知る機会はほとんどないのですが、それを具体的に知ることができた点が個人的には大変プラスでした。

また、参加者の居住地については以下のような

結果が得られました。



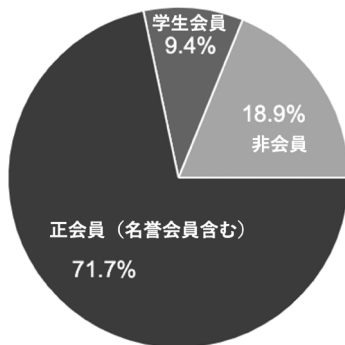
【参加者の居住地】

このように関東地方からの参加者が圧倒的に多い状況ではありますが、甲信越、東海、関西、中国地方と幅広い地域からの参加がありました。参加理由は、講演内容、オンライン開催という方法、年次大会という形式などへの高い関心に加え、オンライン開催であるため参加がしやすかったという声が寄せられました。併せて、今後の大会開催については、「オンラインでの開催にしてほしい」「オンラインとオフラインを併用してほしい」という希望が寄せられました。オンライン開催の便利さを歓迎する反面、オフライン、対面の良さというものをしみじみと噛み締めているというようなコメントも多く見うけられました。

その他、我々実行委員に対する労いのお言葉なども多数寄せられ、心温まる想いが致しました。ありがとうございます。一方で、講演に関して、質疑応答の時間が十分に取れなかったことや、懇親会の運営に関しては問題点を指摘する声も多かったことから、今後の大会運営への課題として受け止めています。特に、懇親会のオンライン開催に関しては企画・準備不足を猛省しています。次の機会にはもう少し世間で広く使われているツールを調べたり、実際にシミュレーションしてみたり、時間と手間をかける必要性を痛感しました。

最後に、今大会の参加者の会員種別については以下の通りになっています。

見ての通り、非会員の参加も多数あったようです。この数値は通常の研究発表大会と大きく変わらない数値となっていますが、プラクティションセミ



【参加者の会員種別】

ナーのような位置付けで、実施内容や告知方法を工夫することによって、より多くの非会員の方々の参加を促し、JASMIN コミュニティの充実を図ることができるのではないかなと感じています。

文中でも触れましたとおり、次回研究発表大会は「Society 5.0 とその先へ～ICT で迎える新しい日常～」をテーマに、2020 年 11 月 7 日（土）・8 日（日）の 2 日間に渡り東京工科大学で開催されます。

2020 年度年次大会を盛況のうちに終えることができたのは、今回大会委員長を務めてくださった妹尾会長はもとより、スタッフ一同、学会理事、ご講演者の皆様、会を盛り上げてくださった参加者の皆様、すべての関係者のご尽力の賜物と感謝申し上げます。



newme の搬入と準備作業の様子



会場からの発信の様子